

3.市民協働による河川活動について

まずはじめに八瀬川以外の場所で実際に活動しているワークショップメンバー2人から、それぞれの取り組み内容を紹介してもらいました。その後ワークショップメンバーは2つのグループに分かれ、八瀬川での活動アイデアを出し合いました。



<取り組みの紹介>

河川活動アイデアの発表 ▶

	道保川を愛する会	鳩川・縄文の谷戸の会
発表の様子		
活動場所など	・道保川は昭和40年頃からほとんどが暗渠になって家庭排水が流れ込み、どぶ川になったが、多自然型川づくりで整備され、保全を目的として有志が活動している	・勝坂遺跡の斜面林と鳩川に挟まれた日本の原風景のような里山で活動している ・公園予定地だが、土地は地主から借りている
活動内容など	・会員は約100名 ・1ヶ月に2回、20~30名で植栽や清掃活動 ・年に2~3回、麻溝小学校の小学生が川に来て調査や清掃活動などを行い、また会員が講師となり学校で勉強会を開催 ・春夏秋冬にイベントを開催し、地元住民と交流 ・会員はそれぞれ異なる考えを持っているが、川をきれいにしたいという気持ちは同じで、楽しみながら行っている	・会員は約40名 ・1年を通じて、田植えや稲刈り、収穫祭、周辺の山と川の手入れ、ホタルの観察会などを開催 ・原型をできるだけ変えず、生物多様性に考慮し、昔の農作業のやり方を参考にしている ・土木作業がきついこともあり、普段の活動に参加しているのは10名前後だが、イベントには60~70名が参加し、保全の意義を訴える場になっている
これからの課題	・湧き水が出る斜面林に産業廃棄物が投棄されており、市と協議して整備していきたい	・市と協力して活動したい ・アダプト制度を活用する

<河川活動のアイデア>

ゾーン	知る	つくる	育む
共通	○ホタルの観察会		○ホタルの生息環境保全活動
崖線	○昔からの生活との関わり方を知る	○カモ等の渡り鳥の生息範囲を広げる	—
溪谷	○川の探検会 ○探鳥会 ○水辺の植物調査	—	○竹の伐採等、斜面林の手入れ ○ごみの清掃 ○定期的なワークショップの開催 ○湧水の保全活動 ○水質の定期測定 ○指導者の育成
住宅	○自然観察会 ○地域の子供を対象とした自然学習会 ○塩田せせらぎ公園でイベント	○川の流れを活用した遊びや遊び場の設置 ○遊歩道の確保	○サークル活動の組織づくり
田園	○湧水のマップづくり ○八瀬川沿いを歩く会	○あじさいを植えて散歩道をつくる	○ワークショップ ○休耕田の復活 ○湧水の調査保全 ○草刈 ○源流部の林の保全 ○家庭汚水管理調査 ○ゴルフ場と斜面の連携 ○ごみの清掃

お問い合わせ先

相模原市都市建設局土木部河川整備課（担当：山口）

〒229-8611 相模原市中央 2-11-15

TEL：042-769-8273 FAX：042-769-5822

第6回八瀬川ワークショップ

11月30日（日）に開催しました！



1.第6回ワークショップの目的

第6回ワークショップでは、前回作成した計画案を踏まえて、さらに検討を深め、より良い案にすることを目的とし、事務局が示した平面図及び横断図を参考にしながら話し合いました。また、市民と八瀬川のこれからの関わり方について、他の地域で実施されている市民活動を参考にしながら、アイデアを出し合いました。

第6回ワークショップの概要

日時と集合場所

11/30（日）14時~17時 麻溝公民館

参加者

ワークショップメンバー：市民17名

主催者：相模原市河川整備課職員

スタッフ：コンサルタント（日本技術開発株式会社）

当日のスケジュール

14:00- | 夢の丘小学校総合学習発表会の報告

14:15- | 市民協働による河川活動の発表

14:45- | 河川活動アイデアの討議・発表

15:40- | 整備方針と整備イメージの説明・討議

16:55- | 第7回ワークショップの連絡

ワークショップのスケジュール

回	日程	内容
第1回 終了	5/31	H19年度基礎調査結果の報告 八瀬川の現況イメージの作成
第2回 終了	6/15	八瀬川現地調査 現況特性カルテの作成
第3回 終了	7/26	道保川等他河川見学 他河川カルテの作成
第4回 終了	9/7	整備方針の作成
第5回 終了	10/19	整備計画案の作成①
第6回 終了	11/30	整備計画案の作成② 河川活動のアイデア出し
第7回 予定	2/1	ワークショップ案の決定 河川活動案の決定

この冊子の内容

夢の丘小学校 総合学習発表会 八瀬川について

10月29日、夢の丘小学校で4年生による学習成果の発表会が行われました。子供たちは、ゴミ、歴史、溪谷ゾーン、生き物のテーマごとに班に分かれ、八瀬川について調べたことや、どんな川にしたいのか、そのために自分たちができることについて発表しました。以下に内容の一部を紹介します。

- さくら橋の下にはゴミがたくさん落ちている
- 溪谷ゾーンは自然がいっぱいだが、藪などに覆われて暗く、また水深が深い所があるなど、危険な部分もある
- 「きれいで緑がいっぱいある川」や「小さいベンチや小さい橋がある川」「日本の魚がすみやすい川」にしたい
- 自分たちができることには、ゴミ拾いや捨てないように呼びかけるポスターなどの設置、雑草の草刈などがある



発表の様子



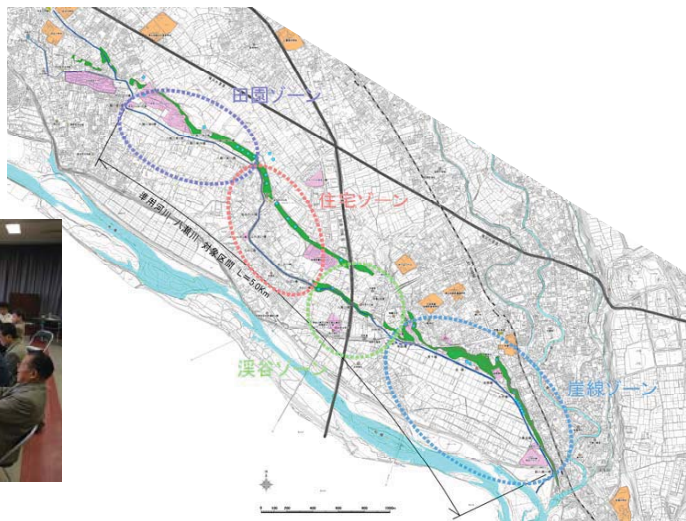
ゴミ調査隊の学習成果

2.整備イメージの検討結果

第5回のワークショップで出された意見を踏まえて作成した整備計画案を見ながら、整備イメージについて話し合いました。



▲ 全員で討議している様子



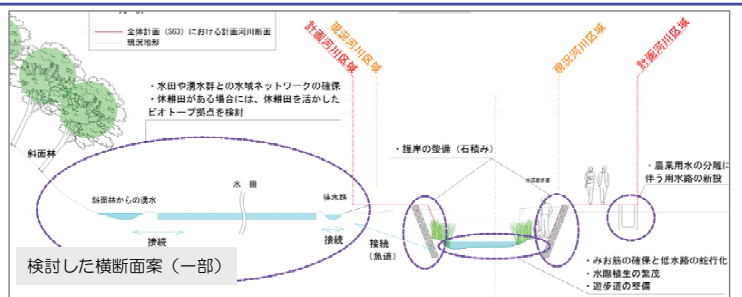
田園ゾーン

整備方針案

斜面林と田んぼの原風景が懐かしい田園ゾーン

整備イメージに関する主な意見

- ・護岸に土手の部分がほしい
- ・水田や畑は市民農園のような形で借り上げできないか
- ・上流側の農業用水組合にも相談すべき



- ・田園ゾーンの工事は随分先になるので、部分的に事業を始められないか
- ・田園ゾーンでは耕地整理をしている場所があり、農地法がかかっているので整理する

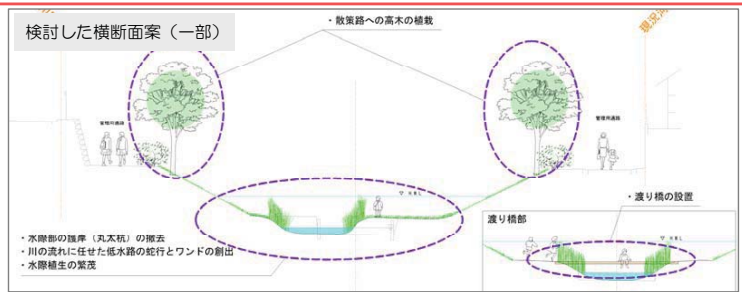
住宅ゾーン

整備方針案

生き物にやさしく、子どもの声がにぎわうゾーン

整備イメージに関する主な意見

- ・今は川というより水路のようなので、お金をかけて手を加えるべき
- ・川の周りに木を植える
- ・直線区間が続くところでは、1度曲げた方がよい



- ・落差工の改良は全断面越流型魚道の設置が良いが、試してから見直す必要がある
- ・現状でも魚は遡上できるのではないかと
- ・魚の遡上に税金を使うかどうか検討すべき

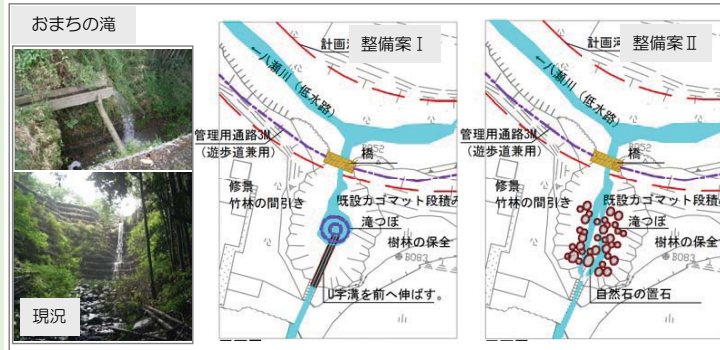
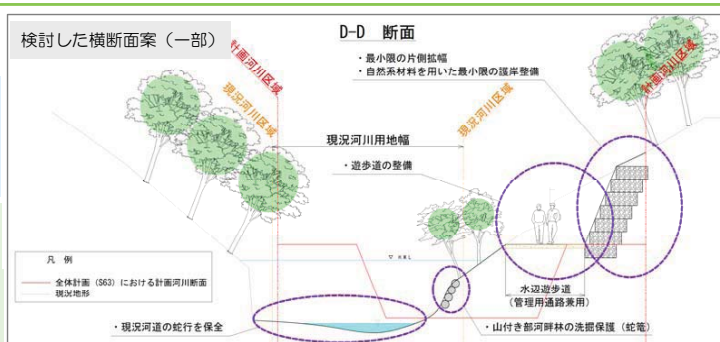
渓谷ゾーン

整備方針案

自然景観の保全により、市民が楽しむ渓谷ゾーン

整備イメージに関する主な意見

- ・見通しが良くなくて死角ができない通路にする
- ・できるだけ自然を残し、広くない通路にする
- ・増水時に避難する方法を考慮して川で遊べる場所をつくる
- ・竹は適切な管理が必要
- ・川が溢れないため、3m幅の管理用通路は必要ない
- ・伐採した竹を運び出す時、軽自動車通れるように3m幅の管理用通路は必要
- ・そのまま保全するために、買収する民地の面積を拡大すべき



崖線ゾーン

整備方針案

斜面林と水辺が連続する崖線ゾーン

整備イメージに関する主な意見

- ・治水と親水のバランスが上手くとられている
- ・ホテルが住める中州が作れない場所ではどうするのか
- ・空石は見た目が悪い
- ・じゃかごの覆土は崩れる恐れがある
- ・洪水時に川が溢れるので、できるだけ流れをよくすべき
- ・河川区域拡幅に必要な民地の買収ができなかった時の代替案をつくるべき
- ・じゃかごや空石積みを無くすために、買収する民地の面積を拡大すべき

